



Design

～地域包括ケア病棟から地域をデザインする～

発行元：地域包括ケア病棟“彩り”・リハビリ科・地域医療連携室

地域包括ケア病棟広報誌Design号外19号です。表面は、栄養管理室からのお知らせです。裏面は、「相楽・認知症を学ぶ会」の参加報告です。（地域医療連携室 室長 南出 弦）

栄養管理室より

～ CKD（慢性腎臓病）教育入院について～



地域包括ケア病棟“彩り”では、CKD（慢性腎臓病）教育入院の受け入れをしております。腎臓専門医を中心に、看護師・コメディカルが関わり指導・支援を行っています。腎臓疾患の食事は、塩分やリン・カリウム等、複数の制限があるため、管理栄養士は、患者

様の今までの食生活を伺いながら指導を行っています。

日本腎臓学会では、CKD療養指導に関する基本的な知識を有し指導にあたる資格として「腎臓病療養指導士」制度を創設、2018年4月よりスタートしました。今年、当院管理栄養士も取得致しました（今年6月1日現在 看護師：2名・薬剤師：1名・管理栄養士：2名）。

患者様自身が主体となって無理なく食生活を継続出来るようサポートしていければと思っております。CKD教育入院がより充実した内容になるよう医師をはじめ、多職種と共に進めてまいります。今後も宜しくお願い致します。（栄養管理室 室長 谷川 直美）

CKD教育入院の詳細は、地域医療連携室（担当：中野・中嶋）までお問い合わせ下さい。

訪問活動を継続しています。

～ ご意見・ご要望をお聞かせ下さい～

3月から地域の皆様のところへの訪問活動を継続していますが、6月からは当院併設の老健やましろ通所リハビリテーションのご案内もさせて頂いています。地域包括ケア病棟“彩り”・通所リハビリテーションへのご意見・ご要望をお聞かせ下さい。（中野・中嶋）

皆様の夏期休暇中に“彩り”をご利用下さい。

～ お気軽に御問い合わせ下さい～

例年のこととなりますが、皆様の夏期休暇中、地域包括ケア病棟“彩り”で受け入れを行っています。一時的に在宅医療が途切れる場合などにご利用下さい。

0774-73-1818（担当：中野・中嶋）

第23回 相楽・認知症を学ぶ会に参加して

～ 認知症の人の意思決定支援について ～

6月1日（土）に開催された「相楽・認知症を学ぶ会」では、京都府立医大の成本迅先生より「医療福祉現場における認知症の人の意思決定支援」と題した講演がありました。

講演の中で、意思決定支援の重要性と難しさについてふれた上で、患者さん個々の認知能力に応じた意思決定支援の方法について、具体的症例も交えてわかりやすく教えて頂きました。特に、医療の現場で治療方針について意思決定を支援していくには、医学的な判断だけでなく、その治療がQOLに及ぼす影響や、患者の意向、社会的な背景など多くの情報が必要となり、その患者さんに関わる多職種の情報共有が大切であることを教えて頂きました。

認知症だからといって意思決定は難しいと簡単に判断するのではなく、患者さんに関わる多くの人との連携を密にして、意思決定支援を実践していけたらと思います。

（地域医療連携室 主任 中嶋 庸介）



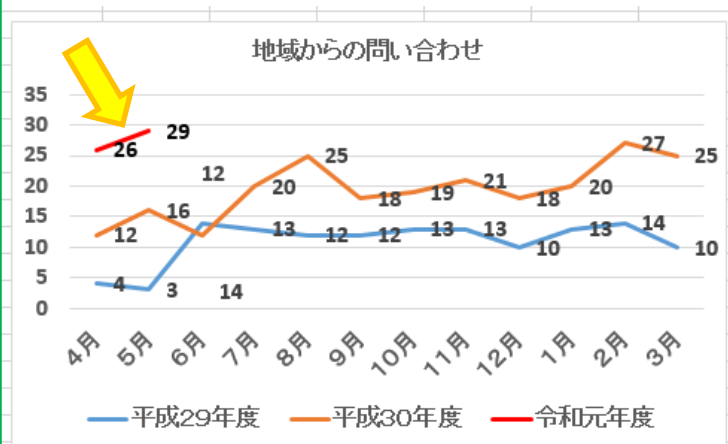
地域医療連携室より

～ Ring me ～

毎日、地域包括ケア病棟“彩り”入院に関するお問い合わせを頂戴しています。この場をお借りしてお礼申し上げます。ソーシャルワーカーが一丸となり、皆様のご期待・ご要望に応えるべく受け入れの調整をしています。お問い合わせ元は、地域の診療所の先生方や地域のケアマネジャーの方、地域の訪問看護師の方や他病院のソーシャルワーカーの方など様々ですが、すべてのお問い合わせに対して真摯な対応を心がけています。真摯な対応を心がけるあまり、患者さんの自宅での生活状況や、医療機関に入院中の場合にはリハビリのゴールレベルの説明がされているかどうかなど、詳細を確認させて頂くことがあります。受け入れに際してすべて必要なことですのでご理解下さい。

*

地域の皆様からの問い合わせ（平成29年度、平成30年度、令和元年度）の比較を以下にお示しします。今年度は4月・5月のみの実績になりますが、4月は26件、5月は29件の問い合わせを頂戴しています。



図にはお示ししていませんが、4月5月の合計55件の問い合わせの内訳ですが、地域の診療所の先生方からの問い合わせが6件（約11%）、ケアマネジャーの方からの問い合わせが26件（47%）、その他（他医療機関など）が23件（42%）となっています。引き続き、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

（地域医療連携室 室長 南出 弦）